

志高錬成

～志を高く持ち、
よりよい成果を得るために、
粘り強く自分を鍛える～



令和8年7月3日 6号

佐久市立浅科中学校 文責：中島

【前期の人権旬間は終わりましたが・・・】

気がつけば6月が終わり、あっという間に7月になりました。1学期も残り3週間あまりとなります。生徒たちは本日行われたテストに向け準備を進めてきました。来週には結果が戻ってきます。生徒のなかにはテスト用紙を保護者の方に見せない人もいかもしれませんが。私にもそんな記憶があります。テストは「結果」が大事ではなく、今までの学習のプロセスを振り返る機会です。良い結果になった教科に関しては是非評価して頂きたいと思います。また、残念な結果になってしまった教科に関しては、できなかった「結果」を指摘するのではなく、「じゃあ、どうすればよかったの？」という「これからの視点」を持ってお話して頂けると幸いです。

さて、本校では6月1日から前期人権旬間ということで、各学年で「人権」について考える時間を作ってきました。「ちがいのちがい」「さまざまな障がいを持った方との接し方・考え方」「権利についてどう考えるか？」など、様々な視点から学習を進めてきました。「人権」や「人との違い」は、日々の生活の中においては当たり前存在するものだと私は思っています。その「当たり前」をもう一度考え直し、自らの行動を振り返ること・・・ここに人権について学ぶ意味があると考えています。そういう意味で、この旬間が、生徒たちにとって意味のある時間になって欲しいと思います。私も担任をしていた頃、人権旬間でどんな話をしようかな(教材を使おうかな)・・・いろいろ考えました。その中で、保護者の方々にも見ていただきたい資料がありましたので、今回の学校便りで紹介させていただきます。



保護者の皆さまは、上に載せた絵をご覧になったことがあるでしょうか。この絵以外にも作品がありますので「こんな感じの絵なら見たことあるかも・・・」と思った方がいるかもしれません。絵の作者は「星野富弘(ほしの・とみひろ)」さんです。星野さんは、群馬県に生まれました。教師になることを目指し大学を卒業した星野さんは、中学校の体育の先生になりました。しかし、中学校の先生になった年、クラブ活動の指導中に頸椎(けいつい)を痛め、首から下が完全にマヒしてしまいました。そんな現実絶望した星野さんですが、周囲の協力もあり、口に絵筆をくわえて絵を描くようになりました。上に載せたのは、その星野さんが描いた絵の1枚です。

先ほども言いましたが、身体が不自由で絵も字も手を使わず口にくわえた筆で描かれています。以前、私もちょっとやってみたことがありますが…全然ダメでした(汗)。また、星野さんの書かれた文章からも、私はいろいろ考えさせられたことがありました。

【 星野さんからのメッセージを紹介します… 】

タイトル「星野富弘さんの祈り」

わたしは、ドクダミという草がきれいでした。へんなにおいがするし、どす黒い葉っぱに、ミミズのような赤い莖が、じめじめした日陰にはえているのですから、名まえからして、さわれば、指がくさってしまうような気がします。でもわたしは、車椅子にのるようになって、とつてもだいじなことを知ることができました。わたしが元気だったころ、からだの不自由な人を見れば、かわいそうだとか、気味がわるいとさえ思ったことが、ずいぶんありました。

しかし、自分が車椅子にのるようになって、はじめてわかったことなのですが、からだの不自由な自分を、不幸だとも、いやだとも思わないのです。けがをして、一、二年は、からだのことでなやんだり、くるしんだりしました。でも、うけた傷は、いつまでも、ひらきっぱなしではなかったのです。傷をなおすために、そこには新しい力が自然とあたえられ、傷あとはのこりますが、そこには、まえよりつよいものがもりあがって、おおってくれます。からだには傷をうけ、たしかに不自由ですが、心はいつまでも不自由ではないのです。

不自由と不幸は、むすびつきやすい性質をもっていますが、まったく、べつのものだったのです。不自由な人を見て、すぐに不幸ときめつけてしまったのは、わたしの心のまずしさでした。だから、ドクダミを見たとき、わたしは思いました。”自分のまずしい心で、花を見てはいけない……”と。そのときから、ドクダミが美しく見えるようになったのです。ミミズのようなだと思っていた赤い莖は、銅の針金のようにたくましく、いやだったにおいは、ほのかな香料のようでした。上をむいて、四つにひらいているまっ白い花は、聖なる十字架のようでした。

いやだと思っていたものが、美しく見えるようになった。

…それは、心のなかに宝物をもったようなよろこびでもありました。

ドクダミの花の前で、わたしは、またひとつ、おとなになれたような気がしました。

「不自由な人を見て、すぐに不幸だと決めつけてしまったのは、私の心のまずしさでした」

この一文に私たちが考えるべきことの全てが詰まっているように思います。障がいとは「個性」であり、誰かと比較するものではありません。時には「〇〇さんは…だからかわいそうだな」と思う気落ちも分かります。しかし、「かわいそう」からは何も始まらない…星野さんはそんなことを私たちに伝えてくれているのではないのでしょうか？。では、なぜ「かわいそう」だと思うのか？。その理由は「分からないから」だと思います。知らないから自分の気持ちが優先される。相手はどう思っている(考えているか)を考えることなく、自分の感情で行動し、その結果、良かれと思ってやったことが、相手にとって迷惑になったり嫌な気持ちになる…これって私たちの生活の中でも起こりうることだと思います。だからこそ「知ること」と「考えること」がとても大事なのだと思います。そのような意味で、今回の旬間が生徒たちにとって良い時間になったと思っています。また、この機会にお家でも「人権」について考えてみてはいかがでしょうか？

